

九条北小学校 校長室だより

N0.55 令和2年9月1日



9月に入りました。9月は、別名「長月（ながつき）」とも言われ、夏と秋の境目とした季節です。これから季節は、次第に秋に向かっていくようですが実際には、いましばらくの間、暑い日が続きそうです。熱中症にも気をつけながら、過ごさせたいと思います。

★ 9月1日は「防災の日」・8月30日～9月1日は「防災週間」★

大正12年9月1日に発生した関東大震災、昭和34年9月に襲来した伊勢湾台風などをきっかけとして、昭和35年の閣議によって「防災の日」が定められましたそうです。

また、全国的に行事を展開するため、8月30日から9月5日を「防災週間」とすることが、昭和57年の閣議によって定められています。

災害の被害を軽減するためには、防災訓練等の取組みを継続的に行い、地域の防災行動力を維持向上させることが非常に重要なと言われています。防災の日と防災週間をきっかけとして、一つでも多く、防災に関する行動を実践できたらと思います。

大阪府では、9月4日に「大阪880万人訓練」が行われます。本校でも、担任より、「防災についての話」をする予定にしています。



★ 関西にある防災を学ぶスポットを紹介します！★

■震災の記憶を語り継ぐ「人と未来の防災センター」（住所：神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2 電話：078-262-5050）

神戸にある災害ミュージアム「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」。ここでは、後世に残すべき阪神・淡路大震災の経験や教訓を語り継ぎ、防災についての重要性を発信しているそうです。西館と東館があります。

西館は主に「震災追体験」「震災の記憶」「防災・消災体験」の3つのフロアで構成されています。なかでも、体験型の「震災追体験」フロアでは、震災発生時の再現映像や激震が襲った町並みをジオラマ展示し、地震破壊のすさまじさをリアルに伝えているそうです。

また「震災の記憶」フロアには、被災者から提供された資料を体験談と共に展示する「記憶の壁」のコーナーがあります。甚大な被害を受けた被災者たちの震災体験が記録されています。

「人と未来の防災センター」では、震災時の記憶や体験から防災を意識するだけでなく、2階の「防災・減災体験フロア」で、実験やゲームを通じて、実践的な防災に関する知識を学習することができるそうです。震災の追体験や記録を学ぶことで、防災について考えるきっかけを与えてくれます。防災についての正しい知識を蓄え、もしもの時に備えられるよう準備したいです。



■ツアーフォーマットで防災学習ができる「あべのタスカル」(住所:大阪市阿倍野区阿倍野筋 3-13-23 あべのフォルサ 3F 電話:06-6643-1031)

東南海・南海地震や南海トラフ地震などの大災害に備えるため、自分自身の住む地域の特性に応じた災害危険を、体験を通じて学べるのが「大阪市立阿倍野防災センター あべのタスカル」だそうです。

「防災体験学習エリア」と「防災研修訓練エリア」の2エリアで構成されているこの施設では、防災について学べる10種以上の体験ブースを設置されているそうです。体験は、専任スタッフが案内するツアーフォーマットで、30分から2時間の計5コースのなかから選択し、震災や水害、火災などさまざまな防災を学べるようになっているとか。特に、災害時の映像を映し出す高さ6m超の巨大スクリーンのほか、震度7の地震を体感できる起震装置や災害発生直後の街並みの再現によって、災害の恐ろしさをリアルに体験できるようです。また、消防体験ができるコーナーなどもあり、消防、避難、救助など災害時に必要な行動を体験学習できるのもこの施設ならではのようです。

ほかにも、津波によって建物が浸水していく様子を実物大のプロジェクトマッピングで表現するシアターや、大阪市全域の被害想定や地域特性に応じた災害危険を学べるコーナーもあるそうです。パニックに陥りやすい災害時に、取るべき行動について学習できるこの施設を活用して、自分に本当に必要な防災について認識し、体験学習した知識を持ち帰り災害に備えられるようにできたらよいです。



■津波災害の擬似体験ができる「津波・高潮ステーション」(住所:大阪市西区江之子島2-1-64 電話:06-6541-7799)

かつて大阪を襲った高潮や、近い将来に大阪を襲うと言われている南海トラフ巨大地震、津波について正しい知識を学ぶことができる「津波・高潮ステーション」。

「海より低いまち大阪」「災害をのりこえ着実な高潮対策」「高潮とは異なる津波の脅威」「津波災害から生命を守る知恵」の4コーナーが物語のように起承転結のある内容で並んでいて、津波に対する防災や地震・津波発生時の対応などを学ぶことができるそうです。

まず、“海面より低い土地”が多い大阪の街を、床面を見立てた展示で現した「海より低いまち大阪」では、海水が流れ込んだ時の恐ろしさを想像させられる。そして、高潮を模した高潮被害トンネルに三大台風の被害写真などが展示される次のブースでは、高潮被害の脅威を発信しています。南海トラフ巨大地震発生時を想定した津波災害体験シアターのあるブースでは、津波による被害規模や被害地域の想定が床面の空撮写真や3Dハザードマップなどで展示され、地震と津波に備えるべき対策について学べる場所になっているようです。

最後は、東日本大震災の実態や津波の心得、家庭での備蓄品、非常持ち出し袋についてなど、津波災害から自身の身を守る方法をあらゆる展示によって学習できます。高潮被害の写真や映像と音による津波疑似体験により、津波や高潮の怖さを知り、正しい避難方法などの知識を身につけられる施設で、地震と津波への備えを徹底できますように。

